

## 阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

< 噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）が継続 >

本日（27 日）午前、気象庁機動調査班（JMA-MOT）は国土交通省九州地方整備局の協力を得て、上空からの調査を実施しました。その結果、火山灰を含む噴煙は火口縁上 1,000m で、北西へ流れており、火口周辺には多量の降灰が確認できました。

本日実施した現地調査では、中岳第一火口周辺にスコリア<sup>1)</sup>が飛散していたことから、この噴火はマグマ噴火であると考えられます。

今後も噴火が繰り返し発生する可能性があります。

### 【防災上の警戒事項等】

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

### 上空からの調査（図 1～3）

本日（27 日）午前、気象庁機動調査班（JMA-MOT）は国土交通省九州地方整備局の協力を得て、上空からの調査を実施しました。その結果、火山灰を含む噴煙は火口縁上 1,000m で、北西へ流れており、火口周辺には多量の降灰が確認できました。

### 噴煙など表面現象の状況（図 1～8）

阿蘇山では、25 日から引き続き噴火が継続しています。本日の噴煙は最高で火口縁上 1,500m に達しており、主に火口から北西側へ流れています。草千里に設置した遠望カメラ（高感度カメラ）では、火口縁を超える赤熱した噴石を夜間に時々観測しています。

本日実施した中岳第一火口周辺の現地調査では、火山灰が約 7 cm 堆積しており、こぶし大のスコリアが飛散していることを確認しました。

また、熊本地方气象台・大分地方气象台が実施した降灰の聞き取り調査の結果、主に中岳第一火口西側の広い範囲で確認し、熊本市内でも確認しました。

阿蘇火山博物館の火口カメラでは火炎<sup>2)</sup>を確認しています。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報 10mメッシュ（標高）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。





図2 阿蘇山 中岳第一火口からの噴煙の状況  
噴煙は火口縁上1,000mまで上がり、北西に流れました。



図3 阿蘇山 中岳第一火口内およびその周辺の状況  
・噴煙は第一火口の中央部付近から噴出しています。  
・火口周辺には多量の降灰が見られます。



図 4 阿蘇山 スコリアの状況  
火口周辺でこぶし大のスコリアを確認しました



図 5 阿蘇山 中岳第一火口南側周辺の状況



図 6 阿蘇山 噴煙の状況 (27 日 08 時 40 分頃、阿蘇市役所より撮影)

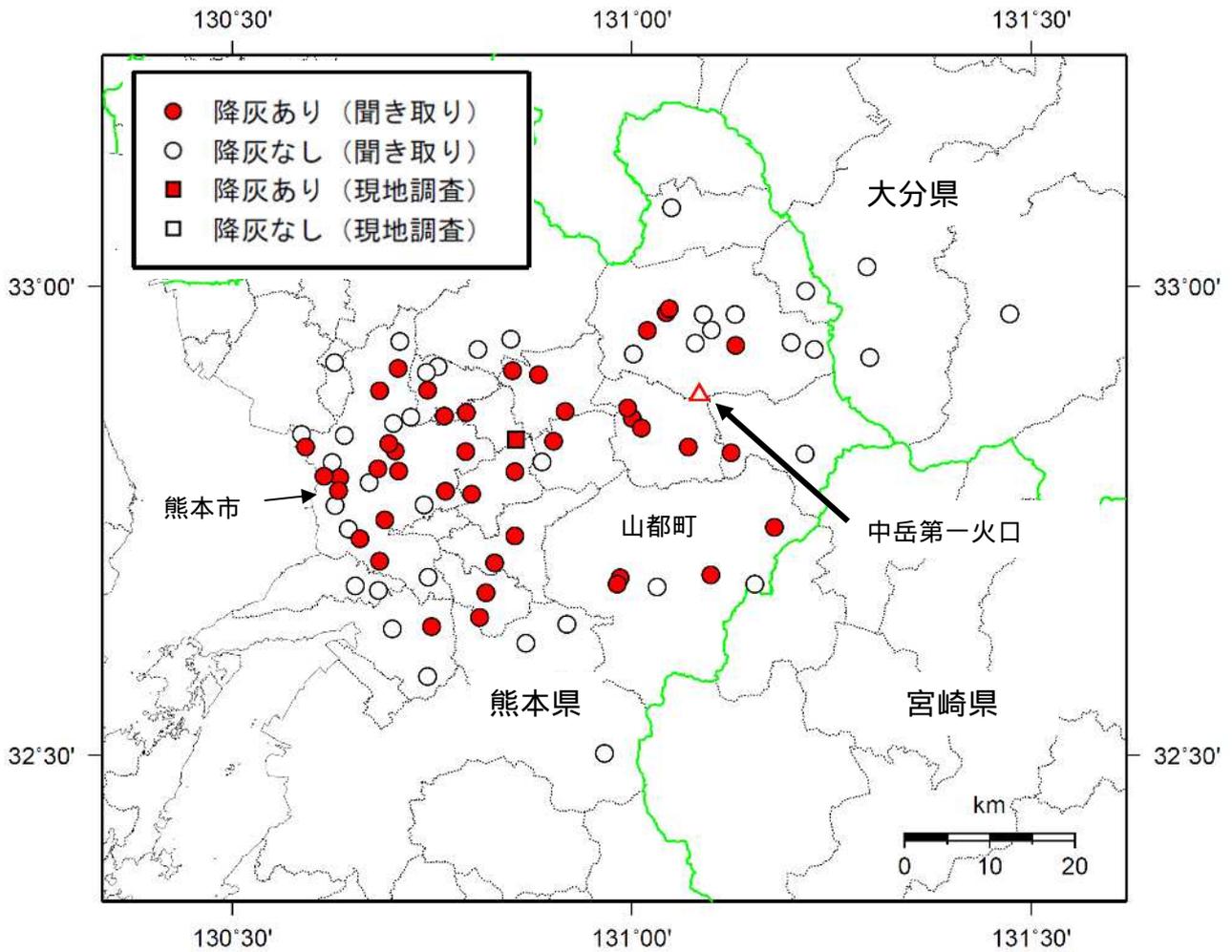


図 7 阿蘇山 噴火に伴う降灰の調査結果

熊本地方気象台・大分地方気象台が実施した降灰の聞き取り調査の結果、主に中岳第一火口西側の広い範囲で確認し、熊本市内でも確認しました。

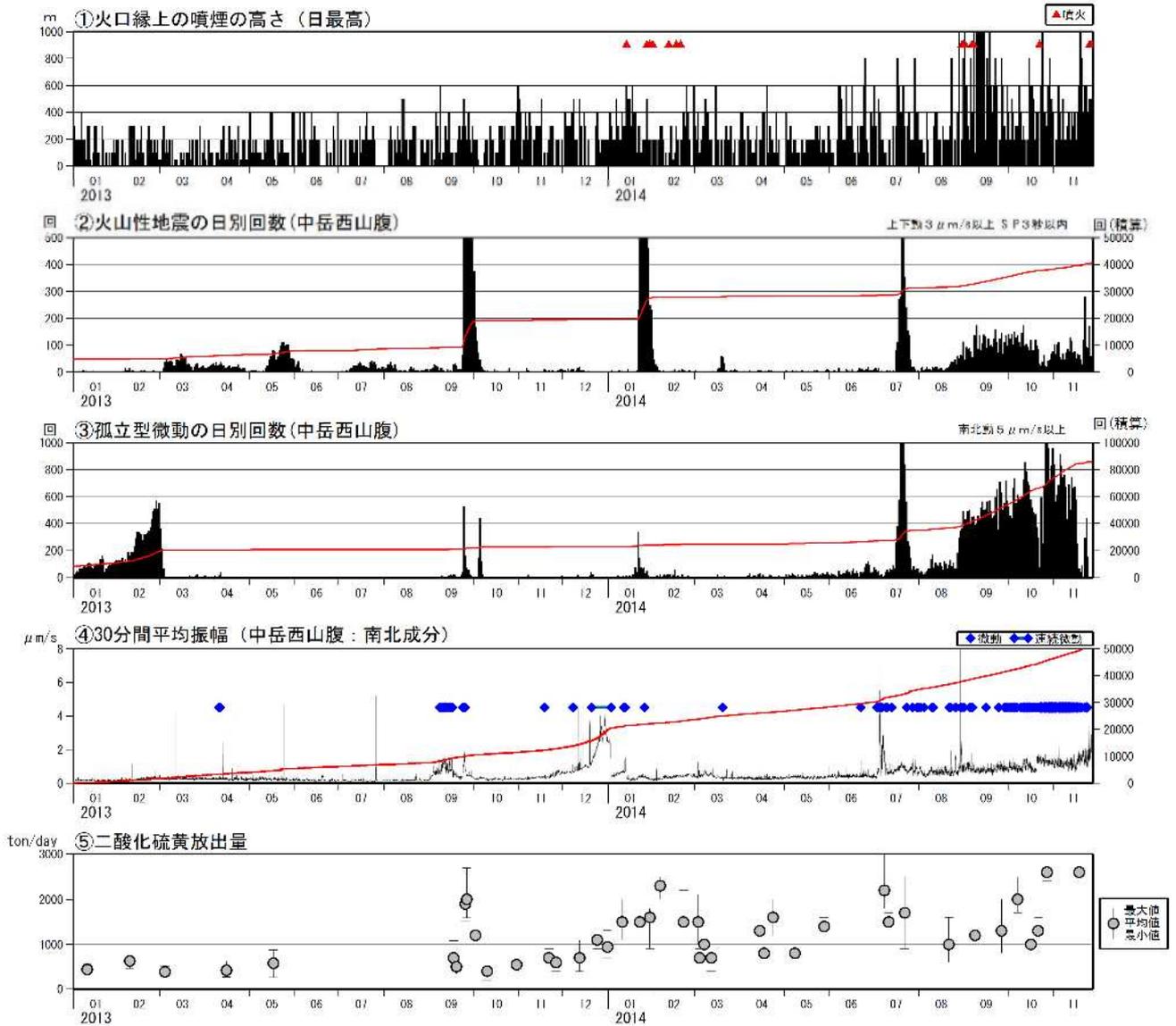


図 8 阿蘇山 火山活動経過図 (2013 年 1 月 ~ 2014 年 11 月 27 日 13 時)

- ・火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら引き続き大きな状態が続いています。
- ・火山性地震と孤立型微動は多い状態が続いていると推定されます。火山性微動の振幅が大きいため、見掛け上、孤立型微動と火山性地震の回数が少なく計数されています。

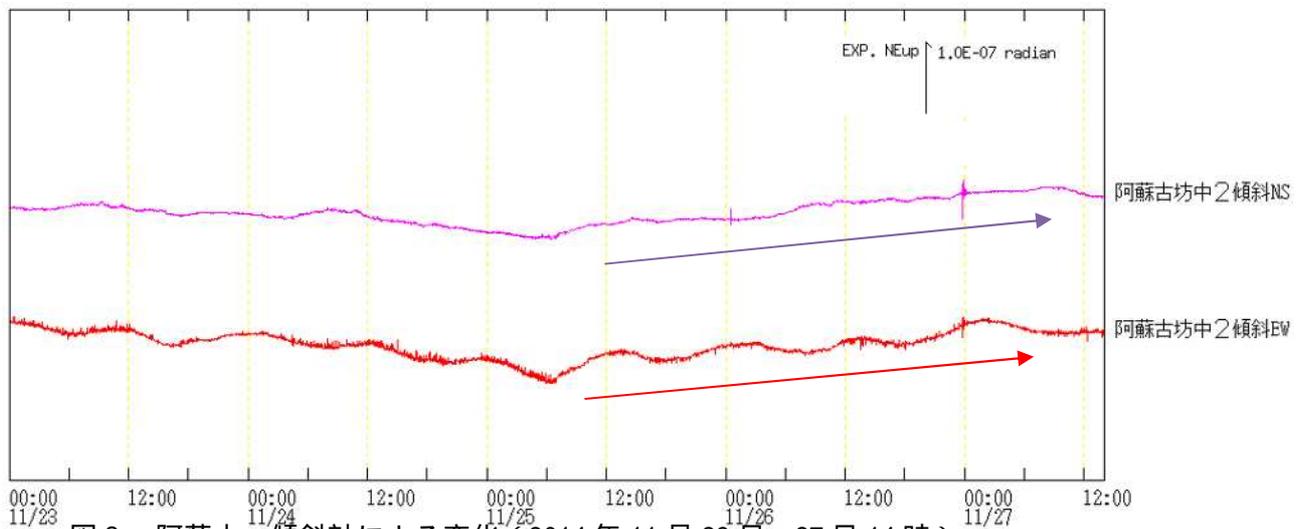


図 9 阿蘇山 傾斜計による変化 (2014 年 11 月 23 日 ~ 27 日 14 時)

傾斜計では 25 日 06 時過ぎから火口上がりの傾向が認められます。

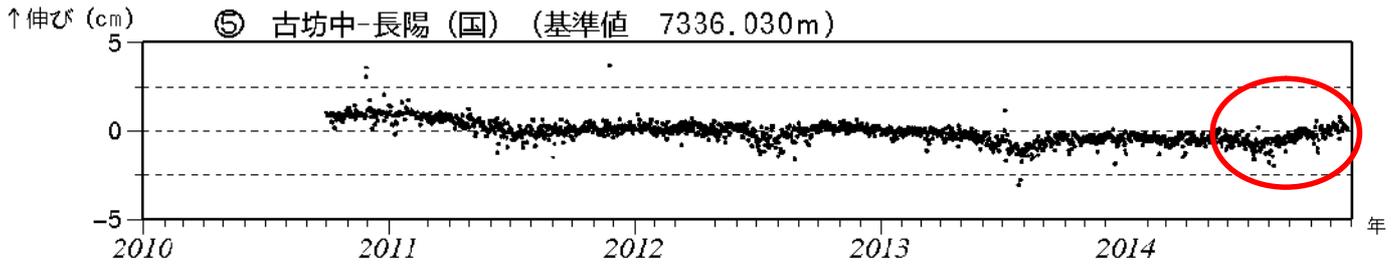


図 10 阿蘇山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日 ~ 2014 年 11 月 26 日)  
古坊中 - 長陽 (国) の基線にわずかな伸びの傾向が認められます (赤丸)。  
この基線は図 11 の赤い線に対応しています。

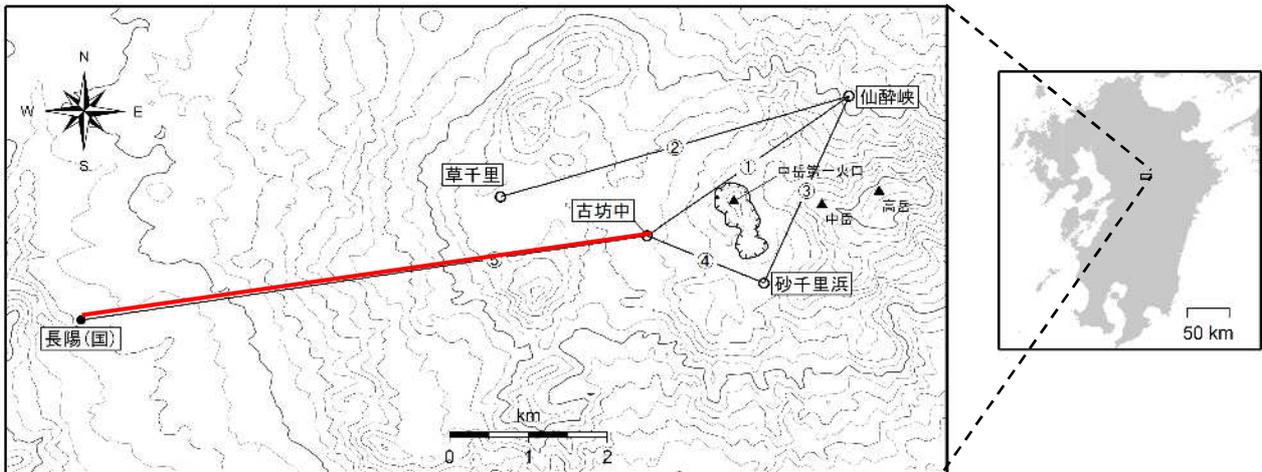


図 11 阿蘇山 GNSS 連続観測点  
小さな白丸 ( ) は気象庁、小さな黒丸 ( ) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国): 国土地理院

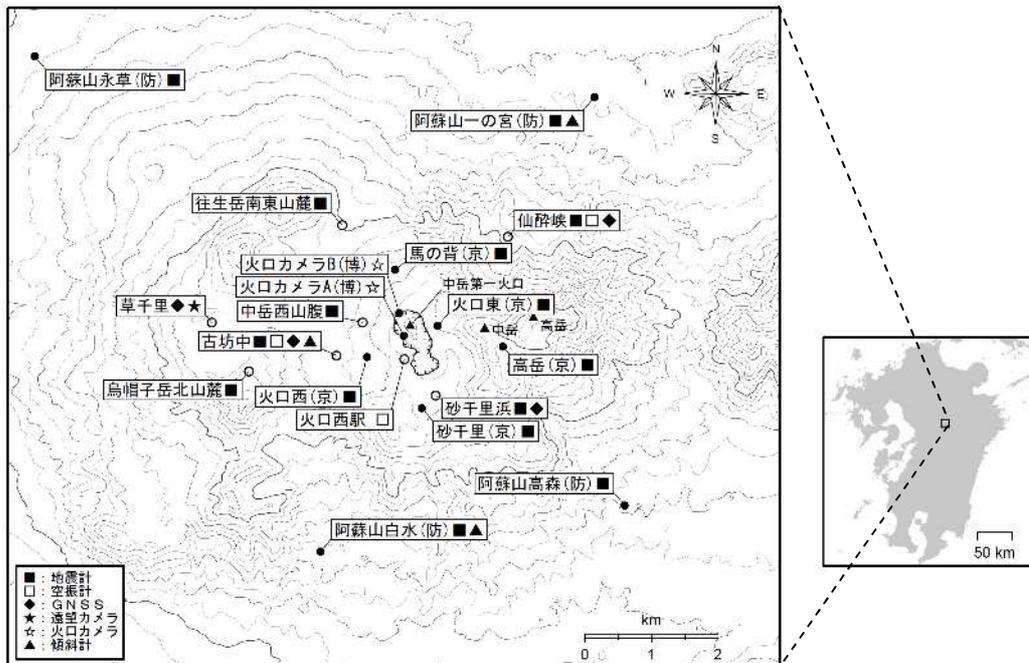


図 12 阿蘇山 観測点配置図  
小さな白丸 ( ) は気象庁、小さな黒丸 ( ) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(京): 京都大学、(防): 防災科学技術研究所、(博): 阿蘇火山博物館